

子どもの学力・生活と学校教育

——「上富田教育調査」第二年次報告（その1）——

Achivement and Life of Children and School Education

梅 田 修（教育学教室）

Osamu UMEDA

〔抄録〕

本稿は、和歌山県西牟婁郡上富田町の朝来小学校・上富田中学校が1994年度に実施した教育調査（上富田教育調査）の分析を通して、「部落問題が提起する教育課題」の解決の到達状況と残された問題点を明らかにすることを目的とした。

1994年度（第二年次）上富田教育調査は、1993年度（第一年次）と同様に、小学校4～6年生、中学校1～3年生の全員を対象に、「子ども・家族の状況」「子どもの学力」「子どもの生活」にわたって調査された。本稿では、この調査のうち、「子ども・家族の状況」と「子どもの学力」の一部（全体的特徴）に限定して言及した。

なお本稿は、1993年度（第一年次）上富田教育調査報告（和歌山大学教育学部『教育実践研究指導センター紀要』第四号、1994年）の続稿である。

キーワード：同和地区，学力，教育扶助

は じ め に

和歌山県西牟婁郡上富田町の朝来小学校と上富田中学校は、校区に同一の同和地区を有する同和校である。両校は、1993年度・1994年度の二年間にわたって和歌山県教育委員会の研究指定「基礎学力充実（同和教育）」を受けた。

両校は、研究指定の機会を利用して、1993年度に教育調査を実施することを計画した。子どもの学力・生活実態を全体的に把握するとともに、今後の同和教育の方向を検討するための材料を得るためである。

この調査（以下「上富田教育調査」）は、当初単年度調査として予定されたが、筆者の提案も配慮されて、1993年～1995年の三カ年調査となった。本稿は、こうした主旨で実施された第二年次（1994年度）調査結果の第一次報告である。第一年次（1993年度）調査結果の一部は、1993年度（第一年次）上富田教育調査報告（和歌山大学教育学部『教育実践研究指導センター紀要』第四号、1994年）として報告している（以下「第一次報告」）。

I. 「上富田教育調査」の概要

(1) 調査の種類と内容・対象・方法

1. 調査の種類と内容

三カ年調査として、次の二種類の調査が設定された。第一年次に「保護者の生活・意識調査」も実施されたが、これは三カ年調査としては計画されておらず、第二年次は実施されなかった。

- ① 子どもの学力調査—小学校・中学校とも二教科（国語，算数・数学）。
- ② 子どもの生活・意識調査

2. 調査対象・調査方法

調査対象は、朝来小学校4～6年生，上富田中学校1～3年生の全員である。調査は、「生活・意識調査」「学力調査（国語）」「学力調査（算数・数学）」ごとに、学校において質問紙によって実施された。問題は原則として三カ年間同一のものである（但し、第二年次の学力問題は第一年次の調査結果をふまえて一部修正された）。なお、筆者が三カ年の継続調査にすることを提案した理由は、「第一次報告」でふれた。

(2) 調査の回答状況（第二年次）

第二年次調査は1994年10月に実施された。表1に回答状況を示している。学校で実施したということで、「生活調査」「学力調査」ともほとんどの児童・生徒が回答している。なお、二つの調査ごとの分析の場合は、それぞれの「実施数」が基礎数となる。

表1 回答状況〔第二年次〕

(人)

| 学 年 | 人数 | 学力調査 | | 生活調査 | |
|-------|-----|------|-----|------|-----|
| | | 欠席 | 実施 | 欠席 | 実施 |
| 小学校4年 | 93 | 3 | 90 | 3 | 90 |
| 小学校5年 | 102 | 1 | 101 | 2 | 100 |
| 小学校6年 | 105 | 0 | 105 | 0 | 105 |
| 中学校1年 | 195 | 0 | 195 | 0 | 195 |
| 中学校2年 | 203 | 0 | 203 | 0 | 203 |
| 中学校3年 | 188 | 10 | 178 | 5 | 183 |

(3) 分析にあたって

1. 子ども・家族の属性

子ども・家族の属性に関わる事柄のうち、学校が把握している「教育扶助の受給」「同和地区・同和地区外（属地にもとづく区分）」「両親の有無」については、第一年次調査と同様、別紙集計用紙に担任が記入した。

2. 上中下位群

学力問題は1問1点で採点し、国語50点満点，算数・数学50点満点に換算した（合計点は100点）。また、学力分析を深めるために上中下位群別分析の方法を用いた。二教科の合計点の上位25%を「上位群」，中位50%を「中位群」，下位25%を「下位群」とした。表2は，第一年次・第二年次における各群の得点の範囲と人数を示したものである。

第一年次と比較して、小5・中1は得点がやや上位にあり、小4・中3は得点がやや下位にある程度で、これらの学年には大きな違いはない。ところが小6は、下位群の範囲が「76.5点-0.0点」（第一年次）に対して、「55.0点-0.0点」（第二年次）であるなど、得点が大きく下位に傾斜している。

表2 上下中位群の区分

| | | 上位群（25%） | | 中位群（50%） | | 下位群（25%） | |
|--------------|----|------------|----|------------|-----|-----------|----|
| | | 得点範囲 | 人 | 得点範囲 | 人 | 得点範囲 | 人 |
| 第一 年 次 | 小4 | 100.0-88.5 | 25 | 88.5- 71.2 | 49 | 71.2- 0.0 | 26 |
| | 小5 | 100.0-84.0 | 27 | 84.0- 65.0 | 52 | 65.0- 0.0 | 27 |
| | 小6 | 100.0-91.0 | 25 | 91.0- 76.5 | 49 | 76.5- 0.0 | 25 |
| | 中1 | 100.0-82.2 | 50 | 82.2- 64.5 | 101 | 64.5- 0.0 | 51 |
| | 中2 | 100.0-76.0 | 46 | 76.0- 50.0 | 91 | 50.0- 0.0 | 46 |
| | 中3 | 100.0-81.0 | 51 | 81.0- 53.0 | 101 | 53.0- 0.0 | 50 |
| 第二 年 次 | 小4 | 100.0-86.4 | 23 | 86.4- 68.0 | 45 | 68.0- 0.0 | 22 |
| | 小5 | 100.0-86.0 | 26 | 86.0- 65.0 | 50 | 65.0- 0.0 | 25 |
| | 小6 | 100.0-84.0 | 26 | 84.0- 55.0 | 53 | 55.0- 0.0 | 26 |
| | 中1 | 100.0-85.0 | 50 | 85.0- 66.5 | 96 | 66.5- 0.0 | 49 |
| | 中2 | 100.0-75.0 | 51 | 75.0- 52.4 | 101 | 52.4- 0.0 | 51 |
| | 中3 | 100.0-79.7 | 45 | 79.7- 53.0 | 88 | 53.0- 0.0 | 45 |

II. 子どもの教育と家庭の生活基盤

(1) 子ども・家族の状況（全体）－第二年次

子ども・家族の属性のうち、学校が把握している「同和地区・同和地区外」「両親の有無」「教育扶助の受給」（第一年次・第二年次）は、表3の通りである。なおここでは、「第一年次報告」と同様、「両親の有無」の中の「父子家庭」「母子家庭」「両親なし」をあわせて「欠親」とし、「教育扶助の受給」の中の「要保護家庭」「準要保護家庭」をあわせて「保護」としている（以下、同様）。以下、第二年次の傾向についてふれる。

同和地区の子どもの占める比率は、小学校においては20%前後、中学校においては10%前後である。

「欠親」家庭の占める比率は学年によって異なり、最も高い学年で15.1%（小4）、最も低い学年で6.7%（中1）となっている。「保護」家庭の占める比率も学年によって異なり、

最も高い学年で7.6%（小6）、最も低い学年で2.9%（小5）となっている。

「欠親」家庭と「保護」家庭は重なって存在しうる。「欠親」家庭の中の「保護」家庭の比率を見ると、小4（50.0%）、小5（23.1%）、小6（72.7%）、中1（38.5%）、中2（66.7%）、中3（21.4%）となっている。学年によって異なり、小6・中2の比率が高い。また、「保護」家庭の中の「欠親」家庭の比率を見ると、小4（100.0%）、小5（100.0%）、小6（100.0%）、中1（83.3%）、中2（90.9%）、中3（37.5%）と中3を除く学年できわめて高い比率となっている。

これらの統計は、対象とする属性の性格上1年間で大きく変動するものではないが、第一年次・第二年次の結果から若干の傾向を指摘することができる。

第一は、「欠親」家庭がやや増加傾向にあるということである。「欠親」家庭は、第一年次は小学校30名、中学校39名であったが、第二年次は小学校39名、中学校42名とやや増加している。特に小4（第二年次）に14名いることが注目される。

第二は、中3を除く学年で、「保護」家庭の中の「欠親」家庭の比率がさらに高くなっ

表3 子ども・家族の状況（全体）〔第一年次〕

| 学年 | 地区・地区外 | | 両 親 | | 教育扶助 | | 欠親 の 保護 | 保護 の 欠親 | 欠親 で 保護 |
|----|--------|------|------|------|------|-----|---------------|---------------|---------------|
| | 地区 | 地区外 | 両親 | 欠親 | なし | 保護 | | | |
| 小4 | 18 | 83 | 93 | 8 | 98 | 3 | 2/8 | 2/3 | 2/8 |
| | 17.8 | 82.2 | 92.1 | 7.9 | 97.0 | 3.0 | 25.0 | 66.7 | 25.0 |
| 小5 | 21 | 85 | 92 | 14 | 99 | 7 | 6/14 | 6/7 | 6/15 |
| | 19.8 | 80.2 | 86.8 | 13.2 | 93.4 | 6.6 | 42.9 | 85.7 | 40.0 |
| 小6 | 20 | 79 | 91 | 8 | 96 | 3 | 3/8 | 3/3 | 3/8 |
| | 20.2 | 79.8 | 91.9 | 8.1 | 97.0 | 3.0 | 37.5 | 100.0 | 37.5 |
| 中1 | 26 | 176 | 188 | 14 | 193 | 9 | 8/14 | 8/9 | 8/15 |
| | 12.9 | 87.1 | 93.1 | 6.9 | 95.5 | 4.5 | 57.1 | 88.9 | 53.3 |
| 中2 | 15 | 174 | 178 | 11 | 184 | 5 | 3/11 | 3/5 | 3/12 |
| | 7.9 | 92.1 | 94.2 | 5.8 | 97.4 | 2.6 | 27.3 | 60.0 | 25.0 |
| 中3 | 17 | 189 | 192 | 14 | 195 | 11 | 9/14 | 9/11 | 9/15 |
| | 8.3 | 91.7 | 93.2 | 6.8 | 94.7 | 5.3 | 64.3 | 81.8 | 60.0 |

〔第二年次〕

| 学年 | 地区・地区外 | | 両 親 | | 教育扶助 | | 欠親 の 保護 | 保護 の 欠親 | 欠親 で 保護 |
|----|--------|------|------|------|------|-----|---------------|---------------|---------------|
| | 地区 | 地区外 | 両親 | 欠親 | なし | 保護 | | | |
| 小4 | 19 | 74 | 79 | 14 | 86 | 7 | 7/14 | 7/7 | 7/14 |
| | 20.4 | 79.6 | 84.9 | 15.1 | 92.5 | 7.5 | 50.0 | 100.0 | 50.0 |
| 小5 | 18 | 84 | 89 | 13 | 99 | 3 | 3/13 | 3/3 | 3/13 |
| | 17.6 | 82.4 | 87.3 | 12.7 | 97.1 | 2.9 | 23.1 | 100.0 | 23.1 |
| 小6 | 20 | 85 | 93 | 12 | 97 | 8 | 8/11 | 8/8 | 8/12 |
| | 19.0 | 81.0 | 88.6 | 11.4 | 92.4 | 7.6 | 72.7 | 100.0 | 66.7 |
| 中1 | 19 | 176 | 182 | 13 | 189 | 6 | 5/13 | 5/6 | 5/14 |
| | 9.7 | 90.3 | 93.3 | 6.7 | 96.9 | 3.1 | 38.5 | 93.3 | 35.7 |
| 中2 | 26 | 177 | 188 | 15 | 192 | 11 | 10/15 | 10/11 | 10/16 |
| | 12.8 | 87.2 | 92.6 | 7.4 | 94.6 | 5.4 | 66.7 | 90.9 | 62.5 |
| 中3 | 16 | 172 | 174 | 14 | 180 | 8 | 3/14 | 3/8 | 3/19 |
| | 8.5 | 91.5 | 92.6 | 7.4 | 95.7 | 4.3 | 21.4 | 37.5 | 15.8 |

1)二つの表とも、上段は人数、下段は百分比

2)二つの表とも、「欠親の保護」は欠親家庭の中の保護家庭、「保護の欠親」は保護家庭の中の欠親家庭、「欠親で保護」は欠親家庭でかつ保護家庭であることを示す。これらの欄の上段の分数は人数を示している。例えば、〔第二年次〕の小4「欠親の保護」欄の7/14は、欠親家庭14人中7人が保護家庭という意味である。下段は、その百分比。

ていることである。「第一次報告」でもふれたように、「欠親」家庭は「欠親」になった事情が一樣ではなく、どの家庭も経済的に困難をかかえているとは限らないが、生活基盤が不安定であることは間違いなく、様々な条件が重なって生活困難におちいる可能性が大きいということである。こうした事態の進行をあらためて示しているといえる。

(2) 子ども・家族の状況（同和地区・同和地区外別）—第二年次

第二年次の「両親の有無」「教育扶助の受給」を、同和地区（以下、地区）・同和地区外（以下、地区外）別に見てみる（表4）。

地区の「欠親」の比率は、どの学年も地区外よりやや高く、特に小4・小6で高い。地区の「保護」の比率は、小5を除く学年で地区外よりやや高く、特に小6で高くなっている。小6は、「欠親」「保護」とも地区の比率が高い。

但し、「欠親」家庭と「保護」家庭の重なりについて地区・地区外別に見てみると、「欠親」家庭の中の「保護」家庭の比率にも、「保護」家庭の中の「欠親」家庭の比率にも、全体の傾向と異なる傾向を見いだすことはできない。地区の「欠親」家庭（小5）が「扶助」を受けていないなど、地区の「欠親」家庭において「保護」家庭の比率が特に高いわけでもない。すなわち、「欠親」家庭は、地区・地区外でほぼ同様の状況におかれていることを示している。これは、第一年次と同様の傾向である。

表4 子ども・家族の状況（地区・地区外別）〔第二年次〕

| 学年 | 地 区 | 両 親 | | 教育扶助 | | 欠親 の 保護 | 保護 の 欠親 | 欠親 で 保護 |
|----|-----|------------|------------|-------------|-----------|---------------|---------------|---------------|
| | | 両親 | 欠親 | なし | 保護 | | | |
| 小4 | 地 区 | 15 78.9 | 4 21.1 | 17 89.5 | 2 10.5 | 2/4 50.0 | 2/2 100.0 | 2/4 50.0 |
| | 地区外 | 64 86.5 | 10 13.5 | 69 93.2 | 5 6.8 | 5/10 50.0 | 5/5 100.0 | 5/10 50.0 |
| 小5 | 地 区 | 15 83.3 | 3 16.7 | 18 100.0 | 0 0.0 | 0/3 0.0 | 0/0 0.0 | 0/3 0.0 |
| | 地区外 | 74 88.1 | 10 11.9 | 81 96.4 | 3 3.6 | 3/10 30.0 | 3/3 100.0 | 3/10 30.0 |
| 小6 | 地 区 | 15 75.0 | 5 25.0 | 16 80.0 | 4 20.0 | 4/5 80.0 | 4/4 100.0 | 4/5 80.0 |
| | 地区外 | 78 91.8 | 7 8.2 | 81 95.3 | 4 4.7 | 4/7 57.1 | 4/4 100.0 | 4/7 57.1 |

| | | | | | | | | |
|----|-----|-------------|-----------|-------------|-----------|--------------|--------------|--------------|
| 中1 | 地 区 | 16 84.2 | 3 15.3 | 17 89.5 | 2 10.5 | 1/3 33.3 | 1/2 50.0 | 1/4 25.0 |
| | 地区外 | 166 94.3 | 10 5.7 | 172 97.7 | 4 2.3 | 4/10 40.0 | 4/4 100.0 | 4/10 40.0 |
| 中2 | 地 区 | 23 88.5 | 3 11.5 | 23 88.5 | 3 11.5 | 2/3 66.7 | 2/3 66.7 | 2/4 50.0 |
| | 地区外 | 165 93.2 | 12 6.8 | 169 95.5 | 8 4.5 | 8/12 66.7 | 8/8 100.0 | 8/12 66.7 |
| 中3 | 地 区 | 13 81.3 | 3 18.2 | 14 87.5 | 2 12.5 | 1/3 33.3 | 1/2 50.0 | 1/4 25.0 |
| | 地区外 | 161 93.6 | 11 6.4 | 166 96.5 | 6 3.5 | 2/11 18.2 | 2/6 33.3 | 2/15 13.3 |

Ⅲ. 子どもの学力と学校教育(1)

——子ども・家族の状況と学力——

(1) 調査結果①—全体的特徴

学力調査の「問題設定の観点」「出題の範囲」については、「第一次報告」でふれたので本稿での説明は省略する。調査結果の全体的特徴についてふれる。学年別の平均点（二教科合計）と標準偏差値（SD）を、学力基本統計（表6の1，6の2）から抽出したのが表5である。第一年次・第二年次の結果からいくつかの傾向を指摘することができる。

表5 学年別平均点・標準偏差値

| | | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2 | 中3 |
|------|-----|------|------|------|------|------|------|
| 第一年次 | 平均点 | 78.6 | 72.6 | 81.1 | 71.3 | 62.0 | 65.6 |
| | S D | 13.6 | 15.6 | 15.5 | 16.0 | 19.6 | 20.2 |
| 第二年次 | 平均点 | 75.8 | 74.9 | 68.5 | 74.1 | 62.0 | 64.7 |
| | S D | 15.8 | 14.4 | 18.4 | 15.7 | 17.0 | 19.5 |

平均点——第一年次は、小学校では小5，中学校では中2・中3がやや落ち込んでいたが，第二年次は，小学校では小6，中学校では中2・中3がやや落ち込んでいる。このことから，二つのことがいえる。

一つは，同一学年にもかかわらず，年度によって傾向が異なる場合があるということである。第一年次小6と比較すると，第二年次小6の「落ち込み」は大きい（平均点で12.6点の落ち込み）。特に，第一年次小5（第二年次小6）の学年の相対的な「落ち込み」については，独自の検討が必要となる。

二つめは，第一年次・第二年次とも共通して中2・中3で落ち込んでいることである。二年間の集計だけでは，中2・中3での「落ち込み」という事態が一般的に生じうるのかどうかは断定はできないが，一つの傾向として無視できない。この点では，第一年次小6であった学年が，第三年次（中2）にどのような傾向を示すのかが注目される。

標準偏差値——第一年次は，小4でやや低く，小5～中1がほぼ同様の値をとり，中2・中3でやや高くなっていた。第二年次は，小5でやや低いものの，小6・中2・中3でやや高くなっている。このことから，二つのことがいえる。

表6の1 学力基本統計（総計、地区・地区外）〔第一年次〕

| 学年 | 統 計 | 総 計 | | | 地区・地区外 | | | | | |
|----|------|------|------|----------|-----------|------|----------|------|-----------|------|
| | | 合計 | 国語 | 算数 数学 | 合計 | | 国語 | | 算数・数学 | |
| | | | | | 地区 | 地区外 | 地区 | 地区外 | 地区 | 地区外 |
| 小4 | 人 数 | 100 | 100 | 100 | 18 | 82 | 18 | 82 | 18 | 82 |
| | 平均点 | 78.6 | 42.2 | 36.4 | 70.0 | 80.5 | 39.2 | 42.8 | 30.7 | 37.7 |
| | S D | 13.6 | 5.9 | 9.0 | 18.0 | 11.8 | 8.7 | 5.0 | 10.0 | 8.3 |
| | t 検定 | ---- | ---- | ---- | *p<0.027 | | p<0.107 | | **p<0.003 | |
| 小5 | 人 数 | 106 | 106 | 106 | 21 | 85 | 21 | 85 | 21 | 85 |
| | 平均点 | 72.6 | 38.3 | 34.3 | 68.0 | 73.7 | 36.4 | 38.8 | 31.6 | 35.0 |
| | S D | 15.6 | 6.9 | 10.0 | 13.1 | 16.0 | 5.3 | 7.2 | 8.9 | 10.2 |
| | t 検定 | ---- | ---- | ---- | p<0.129 | | p<0.164 | | p<0.162 | |
| 小6 | 人 数 | 99 | 99 | 99 | 20 | 79 | 20 | 79 | 20 | 79 |
| | 平均点 | 81.1 | 41.5 | 39.6 | 72.4 | 83.4 | 38.4 | 42.3 | 34.0 | 41.0 |
| | S D | 15.5 | 7.9 | 8.9 | 21.1 | 13.0 | 11.5 | 6.5 | 12.1 | 7.3 |
| | t 検定 | ---- | ---- | ---- | *p<0.037 | | p<0.157 | | *p<0.020 | |
| 中1 | 人 数 | 202 | 202 | 202 | 26 | 176 | 26 | 176 | 26 | 176 |
| | 平均点 | 71.3 | 37.9 | 33.4 | 66.0 | 72.1 | 35.2 | 38.3 | 30.8 | 33.8 |
| | S D | 16.0 | 8.0 | 9.2 | 16.8 | 15.7 | 8.1 | 8.0 | 10.2 | 9.0 |
| | t 検定 | ---- | ---- | ---- | p<0.070 | | p<0.070 | | p<0.121 | |
| 中2 | 人 数 | 183 | 183 | 183 | 14 | 169 | 14 | 169 | 14 | 169 |
| | 平均点 | 62.0 | 32.6 | 29.4 | 48.2 | 63.1 | 24.5 | 33.2 | 23.7 | 29.9 |
| | S D | 19.6 | 9.1 | 12.5 | 26.0 | 18.6 | 13.7 | 8.4 | 13.5 | 12.4 |
| | t 検定 | ---- | ---- | ---- | **p<0.006 | | *p<0.034 | | p<0.076 | |
| 中3 | 人 数 | 202 | 202 | 202 | 16 | 186 | 16 | 186 | 16 | 186 |
| | 平均点 | 65.6 | 32.2 | 33.5 | 53.3 | 66.7 | 28.1 | 32.5 | 25.2 | 34.2 |
| | S D | 20.2 | 10.0 | 11.8 | 24.7 | 19.5 | 11.9 | 9.8 | 14.0 | 11.3 |
| | t 検定 | ---- | ---- | ---- | *p<0.011 | | p<0.094 | | **p<0.003 | |

表6の2 学力基本統計（総計、地区・地区外）〔第二年次〕

| 学年 | 統 計 | 総 計 | | | 地区・地区外 | | | | | |
|----|------|------|------|----------|-----------|------|-----------|------|----------|------|
| | | 合計 | 国語 | 算数 数学 | 合計 | | 国語 | | 算数・数学 | |
| | | | | | 地区 | 地区外 | 地区 | 地区外 | 地区 | 地区外 |
| 小4 | 人 数 | 90 | 90 | 90 | 19 | 71 | 19 | 71 | 19 | 71 |
| | 平均点 | 75.8 | 40.5 | 35.3 | 71.9 | 76.9 | 37.8 | 41.2 | 34.1 | 35.7 |
| | S D | 15.8 | 8.1 | 9.3 | 16.2 | 15.6 | 10.2 | 7.3 | 7.7 | 9.7 |
| | t 検定 | ---- | ---- | ---- | p<0.227 | | p<0.110 | | p<0.503 | |
| 小5 | 人 数 | 101 | 101 | 101 | 18 | 83 | 18 | 83 | 18 | 83 |
| | 平均点 | 74.9 | 38.9 | 36.0 | 66.3 | 76.8 | 34.7 | 39.9 | 31.6 | 36.9 |
| | S D | 14.4 | 7.1 | 8.9 | 17.1 | 13.2 | 9.7 | 6.1 | 8.5 | 8.8 |
| | t 検定 | ---- | ---- | ---- | **p<0.005 | | *p<0.044 | | *p<0.021 | |
| 小6 | 人 数 | 105 | 105 | 105 | 20 | 85 | 20 | 85 | 20 | 85 |
| | 平均点 | 68.5 | 36.7 | 31.8 | 61.2 | 70.2 | 33.3 | 37.5 | 27.9 | 32.7 |
| | S D | 18.4 | 8.3 | 11.7 | 17.7 | 18.2 | 7.9 | 8.2 | 11.3 | 11.6 |
| | t 検定 | ---- | ---- | ---- | *p<0.049 | | *p<0.042 | | p<0.098 | |
| 中1 | 人 数 | 195 | 195 | 195 | 19 | 176 | 19 | 176 | 19 | 176 |
| | 平均点 | 74.1 | 37.9 | 33.4 | 65.1 | 75.1 | 35.1 | 39.8 | 30.1 | 35.3 |
| | S D | 15.7 | 8.0 | 9.2 | 22.6 | 14.5 | 12.5 | 8.2 | 12.0 | 8.0 |
| | t 検定 | ---- | ---- | ---- | p<0.074 | | p<0.122 | | p<0.078 | |
| 中2 | 人 数 | 203 | 203 | 203 | 26 | 177 | 26 | 177 | 26 | 177 |
| | 平均点 | 62.0 | 32.6 | 29.4 | 53.2 | 63.3 | 29.7 | 34.3 | 23.6 | 28.9 |
| | S D | 17.0 | 9.1 | 12.5 | 18.0 | 16.5 | 8.9 | 8.1 | 10.8 | 10.3 |
| | t 検定 | ---- | ---- | ---- | **p<0.005 | | **p<0.007 | | *p<0.015 | |
| 中3 | 人 数 | 178 | 178 | 178 | 16 | 162 | 16 | 162 | 16 | 162 |
| | 平均点 | 64.7 | 32.2 | 33.5 | 52.3 | 65.9 | 25.3 | 32.6 | 27.1 | 33.3 |
| | S D | 19.5 | 10.0 | 11.8 | 27.4 | 18.2 | 13.3 | 9.1 | 15.7 | 11.3 |
| | t 検定 | ---- | ---- | ---- | p<0.070 | | *p<0.046 | | p<0.141 | |

一つは、平均点と同様、同一学年にもかかわらず、年度によって傾向が異なる場合があるということである。第一年次小4の値はやや小さいが、第二年次小4は中1とほぼ同様の値となっている。また、第一年次小6と比較して、第二年次小6の値は大きく、中2の値を上回っている。第二年次小4・小6においては、第一年次の同学年と比較して学力格差が拡大していることがわかる。

二つめは、学年進行に伴って学力格差が拡大・固定化の傾向を示していることである。第一年次の学年と第二年次で次の学年に移った時の標準偏差値は、小4（13.6→14.4）、小5（15.6→18.4）、小6（15.5→15.7）、中1（16.0→17.0）、中2（19.6→19.5）となっている（学年は第一年次で示した）。小5・中1で拡大傾向を示し（小5が顕著）、小6・中2で固定化の傾向を示している。

以上の特徴について、上中下位群別統計をもとに見てみる（表8）。表7は、表8から上位群一下位群の平均点の差を抽出したものである。「第一次報告」では、上位群一下位群の差は小4から中1にかけては30点台であるが、中2・中3で50点前後に達しており、中1を境に学力格差が一層大きくなっていると指摘した。ところが、この傾向は第二年次ではやや異なる。全体としては、学年進行に伴って学力格差が拡大する傾向にあるものの、小6の「落ち込み」が特にめだつ。第一年次小5（第二年次小6）の学年について独自の検討が必要となる。

表7 上位群一下位群の平均点の差

| | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2 | 中3 |
|------|------|------|------|------|------|------|
| 第一年次 | 31.8 | 37.5 | 36.0 | 38.4 | 49.1 | 51.2 |
| 第二年次 | 37.2 | 35.8 | 46.5 | 37.2 | 42.4 | 48.6 |

(2) 調査結果②一地区・地区外別特徴

では、地区・地区外別に見た場合はどのような特徴があるのであろうか（表9）。第一年次・第二年次の結果をあわせて検討する。

第一は、地区・地区外とも、「全体的特徴」として指摘した次の二点はほぼあてはまることである。

①第一年次小5（第二年次小6）の学年の「落ち込み」が大きいこと、第一年次・第二年次とも共通して中2・中3の「落ち込み」がみられること。

②学年進行に伴って、学力格差が拡大・固定化の傾向を示していること（但し、第一年次小4・地区、第一年次中2・地区外はやや異なる）。

第二は、地区外と比較した場合には、地区の傾向として次の点を指摘することができることである。

①平均点に有意差の現れた学年は、第一年次は小4・小6・中2・中3、第二年次は小

5・小6・中2と年度によって異なる。但し、二年間とも有意差が現れたのは、第一
年次小4（第二年次小5）の学年のみである。有意差が現れなかったとはいえ、第二
年次中1・中3の平均点の差は大きい。

表8 学力基本統計—上中下位群〔第二年次〕

| 学年 | 統 計 | 上中下位群 | | | 地区・地区外 | | | | | |
|----|-----|-------|------|------|--------|------|------|------|------|------|
| | | 上位 | 中位 | 下位 | 上 位 | | 中 位 | | 下 位 | |
| | | | | | 地区 | 地区外 | 地区 | 地区外 | 地区 | 地区外 |
| 小4 | 人 数 | 23 | 45 | 22 | 2 | 21 | 11 | 34 | 6 | 16 |
| | 平均点 | 91.5 | 78.3 | 54.3 | 92.3 | 91.4 | 78.0 | 78.4 | 53.9 | 54.5 |
| | S D | 3.5 | 5.9 | 14.3 | 0.8 | 3.6 | 7.0 | 5.6 | 14.6 | 14.7 |
| 小5 | 人 数 | 26 | 50 | 25 | 1 | 25 | 10 | 40 | 7 | 18 |
| | 平均点 | 90.3 | 77.1 | 54.5 | 91.0 | 90.3 | 75.9 | 77.4 | 49.1 | 56.7 |
| | S D | 2.6 | 5.9 | 9.7 | 0.0 | 2.6 | 5.9 | 5.9 | 13.3 | 7.4 |
| 小6 | 人 数 | 26 | 53 | 26 | 0 | 26 | 13 | 40 | 7 | 19 |
| | 平均点 | 88.6 | 71.6 | 42.1 | | 88.6 | 71.6 | 71.6 | 42.1 | 42.1 |
| | S D | 3.7 | 8.0 | 9.6 | | 3.7 | 9.7 | 7.5 | 12.2 | 8.8 |
| 中1 | 人 数 | 50 | 96 | 49 | 3 | 47 | 7 | 89 | 9 | 40 |
| | 平均点 | 88.8 | 78.0 | 51.6 | 88.6 | 88.8 | 78.1 | 78.0 | 47.2 | 52.6 |
| | S D | 3.5 | 5.1 | 12.5 | 2.2 | 3.6 | 4.8 | 5.2 | 20.3 | 10.2 |
| 中2 | 人 数 | 51 | 101 | 51 | 3 | 48 | 11 | 90 | 12 | 39 |
| | 平均点 | 81.1 | 64.1 | 38.7 | 76.5 | 81.4 | 64.6 | 64.0 | 37.0 | 39.3 |
| | S D | 5.2 | 6.0 | 11.7 | 1.8 | 5.2 | 6.3 | 6.0 | 11.4 | 11.9 |
| 中3 | 人 数 | 45 | 88 | 45 | 3 | 42 | 6 | 82 | 7 | 38 |
| | 平均点 | 86.0 | 67.8 | 37.4 | 83.8 | 86.1 | 68.5 | 67.7 | 25.0 | 39.7 |
| | S D | 5.0 | 7.5 | 12.3 | 4.2 | 5.1 | 4.7 | 7.7 | 15.1 | 10.3 |

表9 学年別平均点・標準偏差値（地区・地区外）

| | | | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2 | 中3 |
|------|-----|-----|-------------|-------------|-------------|------|-------------|-------------|
| 第一年次 | 地 区 | 平均点 | <u>70.0</u> | 68.0 | <u>72.4</u> | 66.0 | <u>48.2</u> | <u>53.3</u> |
| | | S D | 18.0 | 13.1 | 21.1 | 16.8 | 26.0 | 24.7 |
| | 地区外 | 平均点 | <u>80.5</u> | 73.7 | <u>83.4</u> | 72.1 | <u>63.1</u> | <u>66.7</u> |
| | | S D | 11.8 | 16.0 | 13.0 | 15.7 | 18.6 | 19.5 |
| 第二年次 | 地 区 | 平均点 | 71.9 | <u>66.3</u> | <u>61.2</u> | 65.1 | <u>53.2</u> | 52.3 |
| | | S D | 16.2 | 17.1 | 17.7 | 22.6 | 18.0 | 27.4 |
| | 地区外 | 平均点 | 76.9 | <u>76.8</u> | <u>70.2</u> | 75.1 | <u>63.3</u> | 65.9 |
| | | S D | 15.6 | 13.2 | 18.2 | 14.5 | 16.5 | 18.2 |

1) 下線のある箇所（学年）は、地区・地区外で有意差あり。

②標準偏差値は、第一年次小5（第二年次小6）の学年で地区がやや低く、第一年次中1（第二年次中2）・第二年次小4では地区外がやや低いものの、第一年次小4（第二年次小5）・第一年次小6（第二年次中1）・第一年次中2（第二年次中3）では、地区の値がはるかに大きい。すなわち、地区の方が学力格差の大きい学年が多い。

以上二つの傾向から、学力の低い子どもが地区にやや多いことを予測させるものであるが、この点を具体的に見てみる。

まず、第一年次と同様、第二年次における算数・数学の学力分布でみる（表10）。小学校の場合「20点以下」の比率をみると、小4－地区（5.3％）・地区外（5.6％），小5－地区（16.7％）・地区外（2.4％），小6－地区（25.0％）・地区外（20.0％）となっている。小5の地区の比率がやや高いものの、小4・小6ではほぼ同様の比率になっている。小学校では、学力の低い子どもが地区に多いとは必ずしもいえない。

中学校ではどうか。「20点以下」の比率を見ると、中1－地区（31.6％）・地区外（7.4％），中2－地区（38.5％）・地区外（20.3％），中3－地区（31.3％）・地区外（16.0％）となっている。中学校では、地区の「20点以下」の比率はやや高い。

この傾向を、上中下位群別統計からみる（表8）。地区の中の下位群の比率（学年全体では25％が相当する）は、小4（31.6％），小5（38.9％），小6（35.0％），中1（47.4％），中2（46.2％），中3（43.8％）である。小4・小6ではそれほど高くないが、中学生では高い。

以上のことは、小学校では、地区の中に学力の低い子どもが多いとは必ずしもいえないが、中学校では相対的に多くなっている状況を示している。これは、学年の進行に伴う一般的傾向といえるのであろうか。ふたたび、第一年次・第二年次における算数・数学の

表10 算数・数学の学力分布（五段階）—地区・地区外〔第二年次〕

| 得点 | | 小4 | | 小5 | | 小6 | | 中1 | | 中2 | | 中3 | |
|-----|-------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|
| | | 人 | 比率 | 人 | 比率 | 人 | 比率 | 人 | 比率 | 人 | 比率 | 人 | 比率 |
| 地区 | 40-50 | 5 | 26.3 | 3 | 16.7 | 3 | 15.0 | 3 | 15.8 | 1 | 3.8 | 3 | 18.8 |
| | 30-40 | 8 | 42.1 | 7 | 38.9 | 6 | 30.0 | 7 | 36.8 | 8 | 30.8 | 7 | 43.8 |
| | 20-30 | 5 | 26.3 | 5 | 27.8 | 6 | 30.0 | 3 | 15.8 | 7 | 26.9 | 1 | 6.3 |
| | 10-20 | 1 | 5.3 | 3 | 16.7 | 4 | 20.0 | 5 | 26.3 | 7 | 26.9 | 1 | 6.3 |
| | 0-10 | | | | | 1 | 5.0 | 1 | 5.3 | 3 | 11.5 | 4 | 25.0 |
| 地区外 | 40-50 | 26 | 36.6 | 33 | 39.8 | 24 | 28.2 | 42 | 23.9 | 23 | 13.0 | 50 | 30.9 |
| | 30-40 | 27 | 38.0 | 32 | 38.6 | 34 | 40.0 | 95 | 54.0 | 49 | 27.7 | 49 | 30.2 |
| | 20-30 | 14 | 19.7 | 16 | 19.3 | 10 | 11.8 | 26 | 14.8 | 69 | 39.0 | 37 | 22.8 |
| | 10-20 | 2 | 2.8 | 1 | 1.2 | 12 | 14.1 | 12 | 6.8 | 26 | 14.7 | 19 | 11.7 |
| | 0-10 | 2 | 2.8 | 1 | 1.2 | 5 | 5.9 | 1 | 0.6 | 10 | 5.6 | 7 | 4.3 |

学力分布でみる。表11は、算数・数学の学力分布における「20点以下」の人数・比率を抽出したものである。

「20点以下」の人数・比率は、出題問題の程度に左右されるので、人数の多さ・比率の高さそのものだけでは比較できない。それで、第一年次から第二年次への推移の仕方の特徴を見ることとする。

第一年次小4（第二年次小5）は地区（11.1%→16.7%）・地区外（4.9%→2.4%）である。地区のみ、1人（5.6%）増加している。第一年次小5（第二年次小6）は、地区（9.5%→25.0%）・地区外（14.1%→20.0%）である。地区・地区外とも増加しており、傾向はほぼ同じである。第一年次小6（第二年次中1）は、地区（10.0%→31.6%）・地区外（1.3%→7.4%）である。地区・地区外とも増加しているが、比率は地区の方が高く増加傾向も地区の方が大きい。第一年次中1（第二年次中2）は、地区（19.2%→38.5%）・地区外（9.1%→20.3%）である。地区・地区外とも増加している。増加傾向はほぼ同じであるが、比率は地区の方がやや高い。第一年次中2（第二年次中3）は、地区（25.9%→31.3%）・地区外（26.3%→16.0%）である。地区外は減少しているが、地区は増加している。

以上の傾向から、次の点を指摘できる。地区では、第一年次中1・中2・中3の「20点以下」の比率が高いのだが、第一年次→第二年次にかけて地区外より地区の増加傾向の方が明確であるというのは、第一年次小6（第二年次中1）・第一年次中2（第二年次中3）である。したがって、中学校では「20点以下」の比率は地区の方が高いことは事実であるが、この比率の高さ（相対的）が学年進行に伴って大きくなっているのかどうかは、以上

の結果からだけでは必ずしも断定できない。第三年次調査が注目される。

表11 算数・数学の「20点以下」人数・比率

| | | | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2 | 中3 |
|-----|------|----------|-----------|------------|------------|-----------|------------|------------|
| 地 区 | 第一年次 | 人数 比率 | 2 11.1 | 2 9.5 | 2 10.0 | 5 19.2 | 7 25.9 | 6 37.5 |
| | 第二年次 | 人数 比率 | 1 5.3 | 3 16.7 | 5 25.0 | 6 31.6 | 10 38.5 | 5 31.3 |
| 地区外 | 第一年次 | 人数 比率 | 4 4.9 | 12 14.1 | 1 1.3 | 16 9.1 | 41 26.3 | 22 11.8 |
| | 第二年次 | 人数 比率 | 4 5.6 | 2 2.4 | 17 20.0 | 13 7.4 | 36 20.3 | 26 16.0 |

(3) 調査結果③—「両親の有無」「教育扶助の受給」

「保護」家庭に占める「欠親」家庭の比率が高いなど、「欠親」家庭は生活基盤が不安定で、さまざまな条件が重なって生活困難におちいる可能性が大きい。こうした家庭の条件が、子どもたちの学力にどのように反映しているのかが次の問題である。

第二年次は、基本的には第一年次とほぼ同様の傾向があるとはいえ、若干異なる傾向も見られる。第二年次の傾向についてふれる（表12）。

「両親の有無」から検討する。平均点は、小4を除く学年で「両親有り」より「欠親」が低くなっており、中2で有意差がある。標準偏差値は、小4・中3で「欠親」がやや小さく、他の学年で「両親有り」がやや高いものの、それほど（第一年次中1・中3のような）大きな違いは見られない。

「教育扶助の受給」はどうか。平均点は、「両親の有無」と同様に、小4を除く学年で「保護なし」より「保護」が低く、中2・中3で有意差がある。標準偏差値は、小学校では学年によって異なるが、中学校では「保護」が高くなっている。

以上の傾向を、別の角度から検討する。第一年次と同様に、算数・数学の学力分布で検討する（表13・表14）。

「両親の有無」別分布（表13）から「20点以下」比率を抽出すると、小4—両親（7.8%）・欠親（0.0%），小5—両親（3.4%）・欠親（15.4%），小6—両親（19.4%）・欠親（33.3%），中1—両親（9.9%）・欠親（7.7%），中2—両親（19.7%）・欠親（60.0%），中3—両親（17.4%）・欠親（16.6%）である。このように、「20点以下」

表12 学力基本統計（両親の有無・教育扶助の受給）

| | | 第一年次 | | | | 第二年次 | | | |
|-----|------|----------|------|----------|------|-----------|------|-----------|------|
| 学年 | 統 計 | 両親の有無 | | 教育扶助 | | 両親の有無 | | 教育扶助 | |
| | | 両親 | 欠親 | なし | 保護 | 両親 | 欠親 | なし | 保護 |
| 小 4 | 人 数 | 92 | 8 | 97 | 3 | 76 | 14 | 83 | 7 |
| | 平均点 | 79.3 | 70.3 | 79.1 | 62.5 | 75.6 | 76.9 | 75.3 | 81.9 |
| | S D | 13.1 | 17.5 | 13.3 | 18.1 | 16.6 | 10.4 | 16.2 | 8.3 |
| | t 検定 | p<0.072 | | *p<0.037 | | p<0.773 | | p<0.293 | |
| 小 5 | 人 数 | 92 | 14 | 99 | 7 | 88 | 13 | 98 | 3 |
| | 平均点 | 73.7 | 65.6 | 73.2 | 63.8 | 75.8 | 69.0 | 75.4 | 60.1 |
| | S D | 14.7 | 19.7 | 14.7 | 25.1 | 14.1 | 15.8 | 14.1 | 21.8 |
| | t 検定 | p<0.070 | | p<0.361 | | p<0.114 | | p<0.071 | |
| 小 6 | 人 数 | 91 | 8 | 96 | 3 | 93 | 12 | 97 | 8 |
| | 平均点 | 81.6 | 76.4 | 81.4 | 73.5 | 69.5 | 60.4 | 69.0 | 62.2 |
| | S D | 15.2 | 18.9 | 15.0 | 32.0 | 18.0 | 20.2 | 18.4 | 17.3 |
| | t 検定 | p<0.372 | | p<0.713 | | p<0.107 | | p<0.313 | |
| 中 1 | 人 数 | 188 | 14 | 193 | 9 | 182 | 13 | 189 | 6 |
| | 平均点 | 72.0 | 61.7 | 71.7 | 62.0 | 74.4 | 70.4 | 74.5 | 62.7 |
| | S D | 15.3 | 21.4 | 15.6 | 21.4 | 15.5 | 18.4 | 15.3 | 23.1 |
| | t 検定 | *p<0.019 | | p<0.076 | | p<0.380 | | p<0.069 | |
| 中 2 | 人 数 | 173 | 10 | 178 | 5 | 188 | 15 | 192 | 11 |
| | 平均点 | 62.5 | 53.4 | 62.3 | 51.9 | 62.9 | 50.1 | 62.6 | 51.5 |
| | S D | 19.4 | 22.8 | 19.6 | 18.9 | 16.6 | 18.8 | 16.7 | 19.4 |
| | t 検定 | p<0.473 | | p<0.247 | | **p<0.004 | | *p<0.036 | |
| 中 3 | 人 数 | 189 | 13 | 191 | 11 | 166 | 12 | 170 | 8 |
| | 平均点 | 66.8 | 49.2 | 66.5 | 50.6 | 65.1 | 58.8 | 65.7 | 43.7 |
| | S D | 19.2 | 27.4 | 19.8 | 22.2 | 19.8 | 14.4 | 18.9 | 22.3 |
| | t 検定 | *p<0.041 | | *p<0.011 | | p<0.277 | | **p<0.002 | |

表13 算数・数学の学力分布（五段階）—両親の有無〔第二年次〕

| 得点 | | 小4 | | 小5 | | 小6 | | 中1 | | 中2 | | 中3 | |
|----|-------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|
| | | 人 | 比率 | 人 | 比率 | 人 | 比率 | 人 | 比率 | 人 | 比率 | 人 | 比率 |
| 両親 | 40-50 | 26 | 34.2 | 34 | 38.6 | 25 | 26.9 | 43 | 23.6 | 24 | 12.8 | 52 | 31.3 |
| | 30-40 | 30 | 39.5 | 32 | 36.4 | 36 | 38.7 | 96 | 52.7 | 54 | 28.7 | 52 | 31.3 |
| | 20-30 | 15 | 19.7 | 19 | 21.6 | 14 | 15.1 | 25 | 13.7 | 73 | 38.8 | 33 | 19.9 |
| | 10-20 | 3 | 3.9 | 3 | 3.4 | 13 | 14.0 | 16 | 8.8 | 26 | 13.8 | 19 | 11.4 |
| | 0-10 | 2 | 3.9 | | | 5 | 5.4 | 2 | 1.1 | 11 | 5.9 | 10 | 6.0 |
| 欠親 | 40-50 | 5 | 35.7 | 2 | 15.4 | 2 | 16.7 | 2 | 15.4 | | | 1 | 8.3 |
| | 30-40 | 5 | 35.7 | 7 | 53.8 | 4 | 33.3 | 6 | 46.2 | 3 | 20.0 | 4 | 33.3 |
| | 20-30 | 4 | 28.6 | 2 | 15.4 | 2 | 16.7 | 4 | 30.8 | 3 | 20.0 | 5 | 41.7 |
| | 10-20 | | | 1 | 7.7 | 3 | 25.0 | 1 | 7.7 | 7 | 46.7 | 1 | 8.3 |
| | 0-10 | | | 1 | 7.7 | 1 | 8.3 | | | 2 | 13.3 | 1 | 8.3 |

表14 算数・数学の学力分布（五段階）—教育扶助の受給〔第二年次〕

| 得点 | | 小4 | | 小5 | | 小6 | | 中1 | | 中2 | | 中3 | |
|----|-------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|------|
| | | 人 | 比率 | 人 | 比率 | 人 | 比率 | 人 | 比率 | 人 | 比率 | 人 | 比率 |
| なし | 40-50 | 27 | 32.5 | 36 | 36.7 | 26 | 26.8 | 45 | 23.8 | 24 | 12.5 | 53 | 31.2 |
| | 30-40 | 33 | 39.8 | 38 | 38.8 | 37 | 38.1 | 98 | 51.9 | 54 | 28.1 | 55 | 32.4 |
| | 20-30 | 18 | 21.7 | 20 | 20.4 | 15 | 15.5 | 28 | 14.8 | 74 | 38.5 | 36 | 21.2 |
| | 10-20 | 3 | 3.6 | 4 | 4.1 | 13 | 13.4 | 16 | 8.5 | 29 | 15.1 | 18 | 10.6 |
| | 0-10 | 2 | 2.4 | | | 6 | 6.2 | 2 | 1.1 | 11 | 5.7 | 8 | 4.7 |
| 保護 | 40-50 | 4 | 57.1 | | | 1 | 12.5 | | | | | | |
| | 30-40 | 2 | 28.6 | 1 | 33.3 | 3 | 37.5 | 4 | 66.7 | 3 | 27.3 | 1 | 12.5 |
| | 20-30 | 1 | 14.3 | 1 | 33.3 | 1 | 12.5 | 1 | 16.7 | 2 | 18.2 | 2 | 25.0 |
| | 10-20 | | | | | 3 | 37.5 | 1 | 16.7 | 4 | 36.4 | 2 | 25.0 |
| | 0-10 | | | 1 | 33.3 | | | | | 2 | 18.2 | 3 | 37.5 |

の比率は学年によって異なる。「欠親」は人数が少なく慎重な検討が必要になるが、きわだって比率が高いのは中2のみであるといえよう。このように、全体としてみれば小4を除く学年で「欠親」の学力はやや低く現れているが、中2を除いて「20点以下」の比率が特に高いとはいえない。

「教育扶助の受給」別分布（表14）から、「20点以下」比率を抽出すると、小4－なし（6.0％）・保護（0.0％），小5－なし（4.1％）・保護（33.3％），小6－なし（6.2％）・保護（37.5％），中1－なし（9.6％）・保護（16.7％），中2－なし（20.8％）・保護（54.6％），中3－なし（15.3％）・保護（62.5％）である。「保護」の場合，「欠親」よりもさらに人数が少なく，いっそう慎重な検討が必要になる。小5・小6の「保護」の比率がやや高くなっているが，人数は少なく（小5・1人，小6・3人），顕著な差があるとはいいがたい。きわだって比率が高いのは，中2・中3である。「20点以下」が半数をこえている。

ちなみに，第一年次・第二年次の「保護」の「20点以下」人数・比率を示すと，表15のようになる。小学校では，人数も少なくややばらつきが見られるものの，中2・中3では共通して比率が高くなっている。

以上，小学校ではばらつきがあるものの，中2「欠親」，中2・中3「保護」で「20点以下」の比率が高いなど中学生において「欠親」「保護」の子どもの学力がやや低い傾向を示してくる。第二年次は，第一年次ほど顕著な傾向ではなかったとはいえ，「学年進行に伴って，家庭の生活基盤の不安定さがしだいに学力に影響していく状況」はうかがうことができる。

表15 「保護」の「20点以下」の人数・比率

| | | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2 | 中3 |
|------|----|------|------|------|------|------|------|
| 第一年次 | 人数 | 2 | 2 | 0 | 3 | 2 | 5 |
| | 比率 | 66.7 | 28.6 | 0.0 | 33.3 | 40.0 | 45.5 |
| 第二年次 | 人数 | 0 | 1 | 3 | 1 | 6 | 5 |
| | 比率 | 0.0 | 33.3 | 37.5 | 16.7 | 54.6 | 62.5 |

(4) 調査結果④—地区・地区外別「両親の有無」「教育扶助の受給」

調査結果②③ふまえて、次の課題となるのは、地区・地区外別にみた「欠親」と「保護」の学力状況である。

但し、「欠親」「保護」の人数が少ないことから、属性をさらに細分化することはいっそうの危険性が伴う。そこでここでは、学校単位に上中下位群別に集計した統計をもちいて検討する。表16は、第一年次・第二年次の学校別、地区・地区外別の「欠親」「保護」の状況である。

表16 学校別、地区・地区別「欠親」「保護」(人数)

| | | 欠 親 | | | | | | 保 護 | | | | | |
|-------------|-----|-----|---|---|-----|----|----|-----|---|---|-----|----|---|
| | | 地 区 | | | 地区外 | | | 地 区 | | | 地区外 | | |
| | | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 |
| 一 年 次 | 小学校 | 0 | 3 | 6 | 5 | 9 | 7 | 0 | 1 | 2 | 3 | 3 | 4 |
| | 中学校 | 0 | 6 | 5 | 4 | 11 | 11 | 0 | 3 | 6 | 1 | 9 | 6 |
| 二 年 次 | 小学校 | 0 | 7 | 5 | 5 | 15 | 7 | 0 | 3 | 3 | 4 | 6 | 2 |
| | 中学校 | 1 | 2 | 6 | 2 | 20 | 9 | 0 | 1 | 6 | 1 | 11 | 6 |

第一年次・第二年次を通して、次のような傾向を指摘することができる。第一は、地区・地区外とも、概して下位群の比率がやや高くなっているが（第二年次「保護」・地区外・小学校を除く）、現れ方は地区の方が顕著である。第二は、地区外には存在する上位群が、地区には1名のみ（第二年次・中学校・「欠親」）だということである。上位群にほとんどいないという傾向は、二年間継続しており、どのような事情が働いているのか検討が必要となる。今後の課題である。